

2026 年度生態工学会 第 1 回理事会

日 時:2026 年 5 月 15 日(金)14:15~15:30

場 所:日比谷図書文化館

【総務委員会】

2025 年度総務委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 2025 年度総会

総会（2025 年 7 月 4 日開催：柏の葉カンファレンスセンター）では、2024 年度の活動報告、会計（監査）報告、2025 年度事業計画および予算について審議し、承認された。

(2) 理事会

1) 第 1 回理事会

2025 年 5 月 28 日に対面で開催（東京文化会館）し、2025 年度年次総会の議案を審議し、承認された。

2) 第 2 回理事会

2025 年 10 月 29 日に Web 開催（Zoom）し、各委員会活動の中間報告と今後の予定について審議・承認がなされた。また、2026 年度年次大会の開催場所、日程が審議され、2026 年 6 月 27-28 日にライトキューブ宇都宮での開催が承認された。

3) 第 3 回理事会

2026 年 2 月 26 日にハイブリッドで開催（東京文化会館・zoom）し、2026 年度年次大会の準備状況が報告された。

(3) 総務委員会

総務委員会を 3 回（2025 年 5 月 28 日、10 月 29 日、2025 年 2 月 26 日）開催し、委員会活動全般につき協議した。

(4) 会員状況

会員数：2026 年 5 月 8 現在（カッコ内は 2026 年 2 月 25 日からの増減）

終身会員 2 名（増減なし）

正会員 319 名（1 名増）

学生会員 90 名（3 名増）

合計 411 名（4 増）

賛助会員数：5 団体 7 口（1 団体増、1 団体減、1 口増）

ダイキン工業株式会社（2 口）、ホテイ産業研究所（1 口）、

宇宙システム開発株式会社（1 口）、プライムデリカ株式会社（1 口）、

株式会社 Seed Bank（2 口）

(5) 審議事項

・日本工学会令和8年度第1回会長・フェロー懇談会への参加について、船田会長にご出席いただくこととなった。

・令和8年度（第27回）民間部門農林水産研究開発功績者表彰のご案内について

・日本工学会令和8年定時社員総会のご案内について

⇒各理事より適任者の推薦がある場合は、会長および総務委員会へ連絡いただくこととなった。

・2027年度日本農学会シンポジウムテーマの募集について、希望者がいれば事務局にご連絡いただくこととなった。

・2026年度会費未納者に、郵送にて年会費納入案内を送ることとなった。

・学会誌の電子化について、総会にて審議を行うこととなった。

(6) 報告事項

・賛助会員の入退会に関して

「クリムゾンインタラクティブ」より、賛助会員退会の申し出があった。

「株式会社Seed Bank」より、賛助会員入会（2口）の申し出があった。

2026年度総務委員会事業計画

(1) 学会運営

財政的にも自立し、従来にも増して効率的な運営をはかる。事務局業務を委託している株式会社アドスリーとの連携を密にし、適切で遅滞のない運営を行う。

(2) 学会活動の活性化

定例シンポジウム開催を定常化し、研究部会活動を推進するなど、学会活動の一層の活性化をはかる。

(3) 支部活動の支援

支部によるシンポジウム開催などの活動を積極的に支援し、支部活動を含めた学会活動全体の活性化に努める。

(4) 会員数の拡大

年次大会・イベント等を通じ、魅力ある学会をPRし、勧誘に努める。

以上

【編集委員会】

2025 年度編集委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」37 巻 2 号～38 巻 1 号(2025 年 4 月、7 月、10 月、2026 年 1 月発刊)を発行した(内容:原著論文 5, 短報 2, ニュース・企画・報告 0, お知らせ, 投稿規程)。また, 2026 年 4 月 10 日時点で受理済みの原著論文が 1 報, 査読中の論文 1 報, 短報 1 報である。また, 38 巻 1 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2025 年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第 37 巻			第 38 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	1	1		3
短報		2	1	
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 編集委員会の実施

2025 年度は大会時の編集委員会および定例メール会議 3 回を実施した。

(3) 学会賞の推薦

本年度は奨励賞、論文賞の該当者なしとして表彰委員会に報告した。

(4) 編集方針の協議

学会誌の完全オンライン化を含めた編集方針の協議を開始した。

2026 年度編集委員会 事業計画

(1) 生態工学会誌の発刊

38 巻 2 号～39 巻 1 号までの計 4 回の発刊を行う。随時、特集企画を組んで紙面の充実を図るとともに、総合論文、特集記事などの投稿依頼を積極的に行う。また、生態工学会学術賞受賞者に寄稿をお願いする。さらに、原著論文の投稿増加を目指す。

(2) 投稿規程等の整備

必要に応じて投稿規程等を実態に即した形に随時改定する。

(3) 原著論文の査読体制についての整備

必要に応じて原著論文の査読体制をより迅速なものにするための改定を行なう。

(4) 学会誌電子ジャーナルの公開

今年度も科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」において、本学会誌を電子ジャーナルとして公開する。公開に関する詳細については、利用状況を参考にしながら必要に応じて改定する。引き続き、完全オンライン化を含めた編集方針の協議を進める。

以上

【企画委員会】

2025 年度企画委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

- (1) 日本地球惑星科学連合 2025 年大会（合同開催）
日 時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）
会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）
主 催：日本地球惑星科学連合
特記事項：5月25日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表5件（13:45～15:00）、現地ポスター発表6件（17:15～19:15）を実施した。

- (2) 2025 年度生態工学会年次大会（主催）
日 時：2025年7月4日（金）～7月5日（土）
会 場：柏の葉カンファレンスセンター
参加人数：92名
特記事項：
 - 7/3 エクスカーション「千葉大学柏の葉キャンパス内植物工場施設、バイオヘルスイノベーションハブ（新研究棟）」 参加20名
 - 一般セッション口頭発表 20件、ポスターセッション 10件
 - オーガナイズドセッション 3件
「月面・火星居住を見据えた企業等の取り組み」 宇宙事業推進委員会、CELSS委員会
「次世代科学社会応援シンポジウム2025」 次世代科学社会活性化委員会
「日本を元気にするNPOの活動（その3）」 NPO法人蔵前バイオエネルギー

- (3) 日本マイクロ重力応用学会 第37回学術講演会 JASMAC-37（協賛）
日 時：2025年9月11日（木）～9月13日（土）
会 場：北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん
特記事項：9月11日13:00から14:20にかけてOS「宇宙惑星居住・ECLSS」を実施し、下記4件の口頭発表を行った。
 - OS1-1 微小重力環境における空気再生システムの現状と課題
○戸田 和宏，島 明日香，桜井 誠人（JAXA）
 - OS1-2 宇宙ステーションにおける水再生
○今村 勇氣，松本 聡（栗田工業 宇宙の水プロジェクトグループ，JAXA）
 - OS1-3 ECLSS環境における製品・サービスのシステムデザインのための要求分析
○野中 朋美，白坂 成功（早大，慶應義塾大）
 - OS1-4 ECLSSが月圏物資輸送需要に与える影響の評価：再生システムと自立システムのシステムダイナミクスの比較
○敷田 剛志，長田 泰一，大木 優介，神武 直彦（慶應義塾大，JAXA）

- (4) 第69回宇宙科学技術連合講演会（共催）
日 時：2025年11月25日（火）～11月28日（金）
会 場：札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）
特記事項：11月28日の9：00から16:30にかけてOS「宇宙で生きる！～宇宙居住と物質循環～」を実施し、下記17件の口頭発表を行った。初めての発表者も複数あり、特に「しん

かい6500」の発表は有人宇宙船と相通ずる部分が多く、南極越冬の発表も限られたリソースで生活する具体的な話を聞くことができ意義があった。

- 4A01 溶媒添加を駆動力とするCO₂選択的回収 ○稲垣 冬彦, 村上 遼 (神戸学院大)
- 4A02 ゼオライト系多孔体を使った空気浄化
○大西 良治, 引間 脩, 武脇 隆彦 (三菱ケミカル)
- 4A03 CeO₂を用いたCO₂除去基礎性能評価試験
○戸田 和宏, 島 明日香, 桜井 誠人 (JAXA)
- 4A04 電気化学システムによる二酸化炭素分離濃縮Electrochemical Carbon dioxide Capture and Concentration
○中山 奈緒子, 水谷 俊介, 平村 泰章, 児玉 充浩 (GSユアサ)
- 4A05 サバチエ反応-酸素製造一体化反応器の研究: 酸素製造部の改修検討
○島 明日香 (JAXA)
- 4A06 宇宙居住環境における窒素・カリウムの循環利用技術の検討
○山口 匡訓, 高橋 顕 (産総研)
- 4A07 光触媒技術を用いた有用物質生産と有害物質除去の試み: 紫外光照射波長の影響
○酒井 秀樹, 滋野 暖高, 淡路 遥斗, 荒川 京介, 勝又 健一 (東京 理科大), 大古 善久 (産総研)
- 4A08 物質循環型食料生産システムでの資源再生を律速する生物化学的要因について
○遠藤 良輔 (大阪公大)
- 4A09 月面居住施設における建築設備設計手法の検討
~短期滞在モジュールによるケーススタディ~
○松岡 竜也 (竹中工務店), 佐藤 淳 (東大), 大畑 勝人, 田中 匠, 佐藤 達保, 天野 千裕, 谷 英明, 富永 悠介 (竹中工務店), 河 鱒 実之, 横関 智弘 (東大), 斉藤 一哉 (九大), 桜井 誠人, 阿波 田 康裕 (JAXA), 星之内 菜生 (阪大)
- 4A10 快適ECLSS×ECLSS: 宇宙での快適な暮らしと循環を支える製品・サービス
○野中 朋美 (早大)
- 4A11 Space Station OSによるECLSSプラットフォーム構想
○飯野 翔太, 加藤 裕基, 坂本 香子 (スペースデータ)
- 4A12 火星有人探査ECLSS物質循環における植物栽培の影響に関するシミュレーション
○諸島 玲治, 山本 愛弥子, 広崎 朋史 (宇宙システム開発), 宮嶋 宏行 (国際医療福祉大)
- 4A13 南極昭和基地での越冬生活 ○津和 佑子 (佐藤淳構造設計事務所)
- 4A14 有人潜水調査船「しんかい6500」耐圧殻内の環境制御システム
○川間 格 (JAMSTEC)
- 4A15 水中環境を利用した疑似月面スキューバダイビングコース
○藤永 嵩秋 (AquaNaut, エコ・プラン, 京大)
- 4A16 月極域の縦孔における水氷の存在可能性とISRUを利用したECLSSへの期待
○桜井 誠人 (JAXA), 篠原 直生 (総研大, JAXA), 春山 純一 (JAXA)
- 4A17 月資源の利用を見据えた月面活動域拡大の検討 ○宮嶋 宏行 (国際医療福祉大)

(5) 定例研究会

第2回定例研究会

日 時 : 10月24日 (第2回理事会後)

タイトル : Plant-based Functional Foods: Insights from Tea Processing and Bioactivity Research

植物性機能性食品 — 茶の加工と機能性研究からの知見

演者 : 宇都宮大学農学部応用生命化学科 助教

秦 葎 氏

第3回定例研究会

日 時 : 2月26日 (第3回理事会後)

タイトル : 大型社会性動物に学ぶ、ヒトの圏外環境での長期居住の可能性

演者 : 帝京科学大理事 篠原 正典氏

2026 年度企画委員会事業計画

(1) 日本地球惑星科学連合2026年大会 (合同開催)

日 時 : 2026年5月24日 (日) ~5月29日 (金)

会 場 : 幕張メッセ、オンライン (ハイブリット方式)

主 催 : 日本地球惑星科学連合

特記事項 : 5月24日 (日) にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表 (5件) とポスター発表 (6件) を実施予定。

(2) 2026年度生態工学会年次大会 (主催)

日 時 : 2026年6月27日 (土) ~6月28日 (日)

会 場 : ライトキューブ宇都宮

特記事項 : 6月27日に総会、表彰式、シンポジウム/オーガナイズドセッションを、28日に口頭・ポスターの一般研究発表および同セッションを開催する予定。

(3) 日本マイクロ重力応用学会 第38回学術講演会 JASMAC-38 (協賛)

日 時 : 2026年11月30日 (月) ~12月4日 (金)

会 場 : 淡路夢舞台国際会議場

特記事項 : アジア微小重力シンポジウム (AMS) 2026と同時開催

オーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」を実施予定

(4) 第70回宇宙科学技術連合講演会 (共催)

日 時 : 2026年11月10日 (火) ~11月13日 (金)

会 場 : ライトキューブ宇都宮

特記事項 : オーガナイズドセッション「宇宙で生きる! ~宇宙居住と物質循環~」を実施予定

(5) 第2回生態工学オンラインシンポジウム (主催)

日 時 : 未 定

会 場 : オンライン

テーマ : 食をキーワードに資源循環や生態系、脱炭素などと絡めた内容を検討する。

特記事項 : 全国からの聴講が期待できるため、本年度もオンラインでの開催とする。

(6) 定例研究会

第1回定例研究会（第1回理事会終了後）

日 時 : 5月15日（金）

タイトル : 微細藻類の生態学的研究を産業へ活かすための挑戦（仮）

講演者 : (株) SeedBank 代表取締役 石井 健一郎 氏

第2回以降も、理事会後に実施する予定。

以上

【表彰委員会】

2025 年度表彰委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 表彰式の実施

2025年7月4、5日に柏の葉カンファレンスセンターで開催された2025年度年次大会にて、以下の通り表彰した。

【貢献賞】

有限会社 ホテイ産業研究所 殿

【優秀講演賞】

山田 大耀 殿

「ヤイトハタ *Epinephelus malabaricus* 用スピルリナ *Arthrospira platensis* 含有配合飼料の開発に関する基礎的研究」

エドゥ・ポーラ・アワイ 殿

「塩分濃度および葉面積指数がレタス育成用閉鎖システムの水回収におよぼす影響」

齋藤 洸太 殿

「リーフレタス栽培における局所的照射による光利用効率の向上」

喜多 まい 殿

「維管束の再接続がトマト接ぎ木の蒸散、吸水および生育に及ぼす影響」

Chun Ho GUN 殿

「Balancing Renewable Integration and Grid Stability: Comparison Vertical and Horizontal Agrivoltaics Deployment Configurations in Japan's Power System」

三木 慎介 殿

「微細藻類を用いたカーボンニュートラル肥料に関するビジネスモデルの提案」

任 一航 殿

「地上型および UAV LiDAR の比較による 3次元森林構造およびパラメータ推定」

2026 年度表彰委員会事業計画

(1) 表彰式の実施

2026 生態工学会年次大会の優秀講演賞については全発表が終了した後、表彰委員会の選考を経て、表彰する。

(2) 被表彰者の募集と選考

各賞の被表彰者の募集および候補者の選考を表彰規定に基づき実施する。

以上

【広報委員会】

2025 年度広報委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) SEE Quick（メール配信）の運営

SEE QUICK 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに 73 回（2404 より 2476 号）情報提供を行った。

配信内容としては、学会主催のイベントの開催案内の他、関連学協会からの団体からのお知らせ、および会員からのイベント開催案内、ならびに公募情報等であった。

(2) ホームページの内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、ホームページのコンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの記載内容（役員変更）の改訂を行い、HP 内の内に掲載した。

2026 年度広報委員会事業計画

(1) SEE Quick 配信（メール配信）の運営

円滑な SEE QUICK の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。
また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) ホームページの内容の更新

迅速な HP の内容の更新と整備を行い、会員および一般の方への情報提供を行う。また、HP コンテンツ拡充のため、他学会 HP 等の内容を調査し、当学会 HP の充実・改善に努める。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの内容を適宜見直し改訂を行うとともに、ホームページに掲載する。

以上

【国際委員会】

2025 年度国際委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

国際委員会副委員長および委員、合計 2 名に新たにご参画頂いた。

2026 年度国際委員会事業計画

2026 年宇都宮大学年次大会で国際シンポジウムを開催する。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2025 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物科学会と共に、「男女共同参画学協会連絡会」に関する問題洗い出しWG活動を行い、2025年の男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにてポスター発表した。世代を超えて知り合い語り合う場であるNAGOMin (NAGOMI 会) も同様に継続している。今年度は回数が少ないが、宇宙関連企業の方及び宇宙研究スペシャリストに話題提供していただいた。2023年度後半より総務委員会の協力を得て個別 zoom を利用した。日本地球惑星科学連合 2025 年大会（千葉幕張メッセ・ハイブリッド）に企画委員会とともにセッションを開催した。この中でNAGOMin の紹介ポスターを掲載した。また、生態工学会 2025 年千葉大会では委員会主導で次世代化学社会応援シンポジウムを開催した。

2026 年度次世代科学社会活性化委員会事業計画

引き続き、男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続し、男女共同参画学協会連絡会内で日本宇宙生物科学会と協力して「男女共同参画学協会連絡会」に関する問題洗い出しWG活動を行う予定である。NAGOMin (NAGOMI 会) についても継続を予定しており、総務委員会の協力を得て個別 Zoom を利用して引き続き活動する予定である。日本地球惑星科学連合 2026 年大会（千葉幕張メッセ・ハイブリッド）を企画委員会とともにセッションを開催予定である。また、生態工学会 2026 年宇都宮大会では委員会主導で次世代化学社会応援シンポジウムを開催予定である。当委員会は、世代や性別等を区別することなく、広く互いに知り合う会として、引き続き活動していく予定である。委員会活動のために協力者を随時募集する。

以上

【産学連携委員会・関西支部】

2025 年度産学連携委員会・関西支部活動報告

下記のように報告がなされた。

上期、下期と 2 回にわたるシンポジウムを開催し、延べ 200 名を超えるご参加をいただき、生態工学会の活動に関心を持っていただき、認知度を上げることが出来た。

1. 大阪・関西万博開催記念合同シンポジウム開催(2025 年 5 月 29 日)

日本生物環境工学会西日本支部との共催で大阪・関西万博開催記念合同シンポジウムを I-site なんばで実施した

- ・大阪関西万博開催に合わせた話題を取り上げたシンポジウムをタイムリーに開催出来た。
- ・現地とオンラインで約 130 名の参加申し込みをいただき、盛会のうちに終えることが出来た。

2. 関西支部シンポジウム食と健康「伝統から未来へ」開催(2026 年 3 月 6 日)

- ・下期に入って漠然とした基本構想(南先生の基調講演)から約半年にわたる準備期間を経て開催。その間、生態工学会以外の他の外部団体にも参加を呼び掛けた。
- ・100 名に迫る参加登録、約 70 名のオンライン参加、191 回のアーカイブ視聴をいただき、高評価をいただけた。
- ・食文化から腸内フローラ、農水省のフードテック関連の取り組みから物質循環の話へと多岐にわたる展開は内容・構成ともに概ね高く評価され、「有意義で参考になった」「今後 も参加したい」との声が多く、満足度は総じて高かった。
- ・日頃関わる食ではあるが、その歴史や文化が以外と知られていないことがよく分かった。
- ・継続開催を望む声、パネルディスカッションが議論を深めるには時間が短いという声が多かった。

2026 年度産学連携委員会・関西支部事業計画

- ・今後もまずは様々な視点から食と健康とその背景に触れることを重要視したい。
- ・本年度もシンポジウムの継続を目指す。講演数を減らしてパネルディスカッションの時間を増やしたい。
- ・関西を中心とした他の外部団体と共に関係企業を中心にフードエコシステム立上げを検討し、そこでの食のバリューチェーン構築活動によって新しい食の産業化の確立を目指していきたい。

以上

【将来構想担当委員会】

2025 年度将来構想担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

農学・環境学関連の周辺学会の動向を調べた。

会員が増えているある学会は、会費や大会参加費が安価で透明性のある運営を行っており、自由な雰囲気がある。

2026 年度将来構想担当委員会事業計画

引き続き周辺学会の動向を調べ、持続可能な運営について提言できるよう情報収集と整理に努める。加えて、入退会の推移、会員種別の動向などについて整理する。

以上

【CELSS 担当委員会】

2025 年度 CELSS 担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) JPGU：日本地球惑星科学連合 2025 年大会

日時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）

会場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月25日（日）に、[H-CG25] 圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用（コンペーパー：加藤 浩（三重大学）を開催。[HCG25-01] 宇宙・月面人工生命維持システムに関する気になるトピックス：中根 昌克（日本大学）、[HCG25-04] 閉鎖生態系生命維持システム（CELSS）での植物栄養塩回収：遠藤 良輔（大阪公立大学）、[HCG25-P02] 陸棲シアノバクテリア *Nostoc sp. HK-01* の乾燥-再水和過程における遺伝子発現および *Cyanophycin* 代謝動態の解析：小山 隼知ほか（東京電機大学）、[HCG25-P03] *Shizosaccharomyces pombe* の胞子が有する過酷環境ストレス耐性の解析：篠田 沙月ほか（東京電機大学）、[HCG25-P04] 閉鎖生態系への導入が検討されている生物の遺伝子機能解析：加藤 浩（三重大学）、[HCG25-P05] 世代を超えて全ての年代の人が知り合い語り合える場「NAGOMin」の活動報告：加藤 浩ほか（三重大学）、[HCG25-P06] 閉鎖居住実験の最新動向：篠原 正典（帝京科学大学）
5月26日（月）に、[A-OS14] 陸域海洋相互作用一惑星スケールの物質輸送（京都大学：山敷先生）に、招待講演として、[AOS14-07] 月極域近傍の縦孔における水の存在の可能性と月面居住：桜井 誠人（JAXA）

(2) 日本生体医工学会第 64 回学術大会

日時：2025年6月6日（金）

会場：フェニックス・プラザ（福井県福井市）

主催：日本生体医工学会

シンポジウム テーマ：「宇宙に生きる ～宇宙環境とスマートヘルス～」

座長：高田宗樹先生（福井大学）、田中邦彦先生

特記事項：宇宙空間で生活するための問題や、その解決に向けた研究について4名のシンポジリストがテーマとして、衣食住、閉鎖空間、宇宙服、放射線被ばくで発表（約15分）。

SY2-1-1-2長期有人宇宙活動を支える植物を中心とした物質循環型の閉鎖生態系生命維持システム:北宅善昭、SY2-1-1-4閉鎖居住実験(analog missions)の過去、現在、これから:篠原 正典

(3) ICES 2024 - Prague -Praha, Czech Republic

54th International Conference on Environmental Systems, July 2025

- ① Kazuhiro Toda, Asuka Shima and Masato Sakurai "Study on Applicability of New Adsorbent CeO₂ to CO₂ Removal Systems Resulting in Decrease of Volume, Weight, and Power Consumption" ICES-2025-285.
- ② Asuka Shima, Yoshitsugu Sone and Masato Sakurai "Carbon Dioxide Reduction-Oxygen Production Tandem Reactor: Development of the Electrolysis Part and Full-scale Testing" ICES-2025-164.
- ③ Masato Sakurai, Nao Hoshinouchi, Nao Shinohara and Junichi Haruyama "Exploration of Vertical Holes Near the Lunar Polar Regions to Confirm the Presence of Water in Underground Caves and Their Utilization" ICES-2025-295
- ④ Naoko Yamazaki, Shinichi Nakasuka, Shuichi Adachi, Yasue Mitsukura, Shunta Sato and Masato Sakurai "Exergy-based Design Approach for Material Circulation System in Space Platform and its Evaluation" ICES-2025-319
- ⑤ Hikono Furuichi, Yuki Ban, Motoharu Kusano, Yusuke Sakamoto, Seiji Kamiyoshi, Masato Sakurai, Shin Noguchi and Ichiro Ueno "Sloshing in a Swinging Rectangular Container: Manned Pressurized Rovers for Low Gravity Conditions" ICES-2025-280
- ⑥ Motoharu Kusano, Taisei Hasumi, Akihiko Murata, Emika Fujii, Toshihiko Chiba, Yuki Ban, Hikono Furuichi, Kazuki Toma, Yuhei Yokozeki, Naoshi Suzuki, Tetsuya Tsuru and Masato Sakurai "ECLSS Lab Platform - Current Activities and Future Plans in the ECLSS Ecosystem in Japan" ICES-2025-247
- ⑦ Masato Ohata, Jun Sato, Sho Tanaka, Tatsuho Sato, Ryuya Matsuoka, Hideaki Tani, Saneyuki Kawabata, Tomohiro Yokozeki, Kazuya Saito, Nao Hoshinouchi, Masato Sakurai, Yasuhiro Awata "Interior Planning for The Habitation Module to Be Installed Inside the Lunar Pit" ICES-2025-317

特記事項：例年はNASAから120名ほどの参加があるが今回は12名のみで、キャンセルが多かった。

(4) 「旅行・住まい・健康・環境技術が宇宙市場を変える：宇宙と地球をつなぐ快適ECLSS×ECLSS（エクルス）の挑戦とは？」（QWSアカデミアスペシャル早稲田大学）

(5) 一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点 第4回公開イベント「低軌道利用と宇宙旅行にかかわる新産業シーズ創出」@X-NIHONBASHI (9/18)

(6) 2025年8月10日-16日、大阪・万博2025 大阪ヘルスケアパビリオン内「ミライの食と文化ゾーン/デモキッチンエリア」にて、展示イベントテーマ：「ミライの宇宙での暮らしと食-宇宙未来生活ラボ - 宙（そら）に生きる未来へ（Space Living Lab- Towards Life Beyond Earth）」が開催された。主催は、京都大学大学院総合生存学館SIC有人宇宙学研究センターで、共催として鹿島建設（株）、DMG森精機（株）、協力団体として（一社）宙ツーリズム推進協議会 コスモ女子 宇宙ごはん研究会に協力いただいた。また同時に開催した宇宙服展示においては、岐阜医療科学大学のKnight Suitsと、Amateras Space株式会社のVESTRAの展示を行い、世界初

の西陣織宇宙服を披露した。また、スペースカフェにおいては、株式会社Space Shiftと、Amulapo (株) の協力を得ると同時に、宇宙産業機構による宇宙検定も実施した。

- (7) 日本マイクログラビティ応用学会の学会企画Space Festival in Muroranにて登壇(桜井)
日 時：2025年9月13日(土)
会 場：北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん
ISS：国際宇宙ステーションの生命維持技術と将来の構想
- (8) 再開第5回ムーンビレッジ勉強会：2025年11月20日(木) 17時から@クロス日本橋ベース、「月に設営するベースキャンプのパッシブ展開構築法と月面経済に関する試算例」東京大学新領域創成科学研究科、佐藤 淳
- (9) 再開第6回ムーンビレッジ勉強会：2025年12月12日(金) 17時から@クロス日本橋ベース、「宇宙建築と建設：月面における加圧宇宙居住施設および全自動建設」元JPL職員 A・スコット・ハウ
- (10) 宇宙惑星居住科学連合 第五・六期2025年度運営委員会がリモートで開催された(1/15)
3月2日(月)の12:00~13:00、宇宙環境利用シンポジウムの昼休みの時間帯に、宇宙惑星居住科学連合運営委員会が開催される予定
- (11) 横浜YOXO(ヨクゾ)フェスティバル2026(1/31, 2/1)
 - ・ 宇宙で生きるしくみをつくろう！ECLSS(エクルス)大実験★@みなとみらい駅チューブにて神奈川県&早稲田大学と出展(1/31, 2/1)
 - ・ 1/31(土)14:30-16:00：宇宙居住の未来を語ろう～宇宙で味わう楽しみと心の揺らぎ@ランドマークプラザ サカタのタネ ガーデンスクエア、京都大学SIC有人宇宙学研究センター
 - ・ 2/1(日)15:30-17:00：宇宙のくらしってどんな感じ？ちょっくらこてつくんと大冒険★@ランドマークプラザ サカタのタネ ガーデンスクエア
- (12) 2/5(木)神奈川県主催「神奈川宇宙サミット」に参加、16:15-16:55：「サステナビリティの答えは、宇宙にある～ECLSS(エクルス)が描く水・空気・食・エネルギー・再生医療の未来～」
- (13) 宇宙基金第二期(宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」) 早稲田大学 野中 朋美先生「牽引型：一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点」採択
- (14) 第二期宇宙基金【輸送】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術(文部科学省)審査中
- (15) 日本宇宙航空環境医学会令和7年度 第1回 宇宙基地医学研究会、
3月6日(金) 18時~20時、
 1. 日本発有人宇宙輸送システム実現に向けて
内山 崇 (JAXA)
 2. 生命維持システム(ECLSS)について
桜井 誠人 (JAXA)

3. 月面有人と圧ローバーについて
大濱 伸之 (JAXA)
4. 船外活動用宇宙服について
田中 邦彦 (岐阜医療科学大学)

(16) 第7回 宇宙QOL研究開発拠点イベント 「宇宙旅行・宇宙生活時代における「快適」と「QOL」とは何か？」 (QWSアカデミア 早稲田大学) @渋谷スクランブルスクエア15F、2026. 03. 30(月)

(17) 宇宙建築学の教科書 (仮)、出版社：彰国社、執筆中、東海大学、十亀先生リード

(18) 令和7年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム、令和7年度で終了の予定であったが、予算は追加しないで令和8年度まで延長する。宇宙基金へつなげられるか検討中。

(19) 日本建築学会内部で「宇宙居住小委員会」が立ち上がった。東海大学、十亀先生のリード。月極域の縦孔探査用居住モジュール、地上のアナログサイト、などの建築のデザイン検討を依頼開始した。3年後ぐらいに出来る予定。

2026年度 CELSS 担当委員会事業計画

(1) 「東京理科大学オープンカレッジ」2026年度講座

日時：4月18日(土) 10:30~12:00

会場：東京都千代田区飯田橋 4-10-1 セントラルプラザ 2階

特記事項：宇宙でいきる！宇宙居住と物質循環、桜井誠人(JAXA)

(2) 「第43回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会」

日時：2026年4月21日(火)

会場：早稲田大学国際会議場

特記事項：「宇宙居住に向けた空気清浄技術」桜井 誠人(JAXA)

(3) JpGU：日本地球惑星科学連合2026年大会

日時：2026年5月23日(日)~5月29日(金)

会場：幕張メッセ、オンライン(ハイブリット方式)

主催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月24日(月)に、JpGU 千葉幕張メッセ A-0S18 [E] 陸域海洋相互作用-惑星スケールの物質輸送(京都大学：山敷先生)にて発表[AOS14-07] C004237有人宇宙探査における物理化学的手法による生命維持システム：桜井誠人(JAXA)

(4) 15th Asian Microgravity Symposium (AMS2026)

日時：2026/11/30 - 12/04

会場：兵庫県/淡路夢舞台国際会議場

<https://www.jasma.info/ams2026/>

- ・4月15日 投稿受付開始
- ・5月31日 受付終了
- ・6月15日 投稿採択通知
- ・6月15日~8月31日 Extended abstract投稿期間 (A4 2ページ以上、IJSMA形式)

- ・6月15日～8月31日 早期参加登録期間
- ・11月15日 参加登録終了
- ・11月30日～12月4日 AMS2026

- (5) 【宇宙戦略基金 第2期】宇宙システム開発株式会社を代表とするコンソーシアム、有人宇宙輸送を支えるECLSS(環境制御・生命維持システム)の技術開発テーマに採択
技術開発テーマ名：有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術 (A) ロケットの往還飛行用の与圧キャビンシステムに必要な生命維持・環境制御機能と与圧機能を実現する基盤技術開発
実施機関名 (代表機関)：宇宙システム開発株式会社
研究代表者名：広崎 朋史
技術開発課題の名称：有人宇宙輸送の安全確保に資する与圧キャビンECLSS技術の確立
- (6) 【宇宙戦略基金 第2期】岩谷技研が宇宙戦略基金事業「有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術」に採択
技術開発テーマ名：有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術
実施機関名 (代表機関)：株式会社岩谷技研
研究代表者：岩谷 圭介
技術開発課題の名称：有人宇宙船汎用与圧キャビンシステムーキャビン構造・クルーシステム・ECLSS
- (7) 文部科学省・令和7年度宇宙航空科学技術推進委託費の「宇宙人材育成プログラム/宇宙専門人材育成」プログラムに理工学術院・野中朋美教授が採択
「宇宙滞在の快適性をデザインする宇宙専門人材育成プログラム」が始動
- (8) 宇宙戦略基金事業 宇宙転用・新産業シーズ創出拠点「SX-CRANE」に、理工学術院・野中朋美教授の提案が採択
研究開発課題名「一般民間人の健康・快適宇宙生活を実現する宇宙QOL研究開発拠点 (牽引型)」

【助成金・補助金等情報】

宇宙戦略基金 (第三期)

<https://fund.jaxa.jp/content/uploads/yokoku20260313.pdf>,

<https://fund.jaxa.jp/>

SX基盤領域発展研究(SX-ARK)「環境と生存」

https://www8.cao.go.jp/space/kikin/phase3_gaiyou.pdf

https://www8.cao.go.jp/space/kikin/jissihousin_monka_20260225.pdf

JAXA宇宙探査イノベーションハブ「Moon to Mars Innovation」情報提供要請 (RFI) 募集

https://www.ihub-tansa.jaxa.jp/rfi/RFI_notice.html

随時相談受付中

宇宙イノベーションパートナーシップ (J-SPARC)

<https://aerospacebiz.jaxa.jp/solution/j-sparc/>

以上

【宇宙事業推進担当委員会】

2025 年度宇宙事業推進担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報を SEE Quick で配信した。(第18回：2026/2/9)
- (2) 2026 生態工学会年次大会において、CELSS 委員会と共同で宇宙居住に関連するオーガナイズドセッションを下記の通り企画検討中。
 - ・OS 名：月面・火星から避難所まで ～極限環境における生存基盤技術～
 - ・概要：宇宙と被災地における極限環境での生存基盤確保の要件が一致することから、本セッションでは宇宙技術の地上展開に焦点を当て、循環型資源やインフラ確保に関する異分野融合の議論を行いう。
 - ・発表：5 件程度を予定
- (3) 宇宙居住の関連分野をリスト化し、分野毎の団体・企業のリストを作成中。

2026 年度宇宙事業推進担当委員会事業計画

- (1) 今後の活動計画
 - ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金等の情報収集を行い、SEE Quick で2～3 ヶ月に1 回程度定期的に配信する。
 - ② CELSS 委員会と協力し、2026 年次大会において宇宙居住関連の OS の準備を進める。
 - ③ 宇宙居住の関連分野をリスト化し、分野毎の団体・企業のリストを作成する。このリストに基づいて年次大会 OS 等の発表候補選定に役立てると共に、ある程度リストが作成出来た段階で賛助会員入会の打診も検討する。
 - ④ NPO 法人日本火星協会等と協力して、月・火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。

以上

【循環型社会構築担当委員会】

2025 年度循環型社会構築担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

循環型社会構築委員会における今後の活動方針や、2026 年度生態工学会年次大会（宇都宮大会）におけるオーガナイズセッション開催に向けた検討・調整を進めた。

2026 年度循環型社会構築担当委員会事業計画

- (1) 2026 年度生態工学会年次大会（宇都宮大会）におけるオーガナイズセッションの開催

オーガナイズセッションテーマ：

「バイオエコノミーの国内外動向を踏まえた資源循環・脱炭素化の社会実装に向けた生態工学の貢献」

講演数：3 件予定

現状：講師調整中

- (2) 第 3 回循環型社会構築委員会（予定）

宇都宮大会におけるオーガナイズセッション開催を踏まえ、今後の活動計画や 2027 年度大会でのオーガナイズセッション等について協議を行う。

以上

【各支部活動】

2025 年度各支部活動報告

下記のように報告がなされた。

【北海道・東北支部】

特筆事項なし

【中部・東海支部】

支部会を農業気象学会東海・北陸支部と合同で開催した。開催日時は 2025 年 12 月 12 日午後 1～5 時、開催場所は岐阜県岐阜市（岐阜市文化センター）であった。生態工学会会員からは 6 件の発表があった。

【中国・四国支部】

日本生物環境工学会 2025 年愛媛大会（開催地：愛媛大学農学部／ハイブリッド開催）において、以下の 2 つの一般公開シンポジウムを後援いたしました。

一般公開シンポジウム I（2025 年 9 月 16 日開催）

「Speaking Plant Approach 2.0 ～農業生産現場実装と学術の次なる挑戦～」

（主催：日本学術会議関連分科会、日本生物環境工学会 等）

一般公開シンポジウムⅡ（2025年9月17日開催）

「愛媛県デジタル実装加速化プロジェクト『トライアングルエヒメ』における農業DXにおける産官学連携の成果」

（主催：日本生物環境工学会）

【九州・沖縄支部】

- ・日本農業気象学会九州支部の後援（長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門，2025年11月5-6日）
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

2026年度各支部事業計画

【北海道・東北支部】

引き続き会員数の確保に努めたい。

【中部・東海支部】

昨年同様、支部会を農業気象学会東海・北陸支部と合同で開催する。中部・東海支部に在籍する会員への参加呼びかけを積極的に行う。

【中国・四国支部】

日本生物環境工学会四国支部シンポジウム（計画中）を後援予定

【九州・沖縄支部】

- ・他学会（近隣分野）九州支部との共同企画の検討（後援など）
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

以上

2025 年度会計報告・2026 年度会計監査報告

下記のように決算の報告がなされた。

2025年度 生態工学会 収支決算書

科 目	実績金額	摘 要 (内訳)
I 収入の部		
個人会費	887,000	正会員入金84口 学生会員9口 終身会員1口
賛助会費	350,000	当該年度外(正会員)11口 7口(2口1社、1口5社) (内、1社(1口)は2024年度請求漏れにつき2025年度に 50,000円入金)
年次大会	808,840	年次大会参加費
シンポジウム等	0	
定例研究会	0	
研究部会	0	
学会誌掲載料・広告料等	656,000	学会誌掲載料、広告料
資料代	60,113	別刷り代
利息	3,918	
雑収入	0	
当期収入合計 (A)	2,765,871	
前年度繰越金	3,443,144	
事務所開設積立金取崩	0	
収入合計 (B)	6,209,015	
II 支出の部		
総会・年次大会経費	558,506	
シンポジウム等経費	0	
会誌作成費・同送料	1,034,576	
定例研究会	0	定例研究会費用、事務費他
研究部会	0	
広報宣伝費	0	ホームページの経費は事務局通信費等に含まれる
事務局経費	1,238,102	事務局委託費 999,240 事務局経費 169,980 通信費 68,882
関連学協会等経費	177,170	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協同 参画学協会、日本工学会、日本農学会など
理事会経費	9,000	会場費など
委員会経費	0	
表彰経費	28,108	
その他	1,430	雑費(郵便振替口座の残高証明書発行費、口座間資 金移動手数料)
当期活動費支出合計 (C)	3,046,892	
当期活動費収支差額 (A) - (C)	-281,021	
事務所開設積立 (D)	0	
当期支出合計 (E) = (C) + (D)	3,046,892	
次年度繰越金 (B) - (E)	3,162,123	

事務所積立金	
1990年～2025年3月末までの積立額	¥6,000,918
2025年度利息	¥6,352
2025年度取崩	¥0
2025年度残高	¥6,007,270

監査実績書

2025年4月1日より2026年3月31日に至る機関に於ける生態工学会の収支決算報告書を監査した結果、正当かつ妥当であることを認めます

生態工学会会計監査 吉田洋明
田澤信二

※収支報告書につきましてはただいま会計監査手配中です。

2026 年度会計予算案

予算案について審議を行い、下記の内容で総会に提出することとなった。

2026年度 生態工学会 予算案

科 目	2026年度予算案	2025年度決算	摘 要 (内訳)
I 収入の部			
個人会費	990,000	887,000	正会員入金95口 学生会員10口 終身会員2口 当該年度外(正会員)10口
賛助会費	350,000	350,000	7口(2口2社、1口3社)
年次大会	750,000	808,840	年次大会参加費
シンポジウム等	50,000	0	
定例研究会	0	0	
研究部会	0	0	
学会誌掲載料・広告料等	750,000	656,000	学会誌掲載料、広告料
資料代	100,000	60,113	別刷り代
利息	4,000	3,918	
雑収入	0	0	
当期収入合計 (A)	2,994,000	2,765,871	
前年度繰越金	3,162,123	3,443,144	
事務所開設積立金取崩	0	0	
収入合計 (B)	6,156,123	6,209,015	
II 支出の部			
総会・年次大会経費	550,000	558,506	
シンポジウム等経費	20,000	0	
会誌作成費・同送料	1,000,000	1,034,576	
定例研究会	0	0	定例研究会費用、事務費他
研究部会	0	0	
広報宣伝費	0	0	ホームページの経費は事務局通信費等に含まれる
事務局経費	1,230,000	1,238,102	事務局委託費、事務局経費 通信費
関連学協会等経費	150,000	177,170	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協 同参画学協会、日本工学会、日本農学会など
理事会経費	10,000	9,000	会場費など
委員会経費	0	0	
表彰経費	30,000	28,108	
その他	0	1,430	雑費(郵便振替口座の残高証明書発行費、口座間 資金移動手数料)
当期活動費支出合計 (C)	2,990,000	3,046,892	
当期活動費収支差額 (A) - (C)	4,000	-281,021	
事務所開設積立 (D)	0	0	
当期支出合計 (E) = (C) + (D)	2,990,000	3,046,892	
次年度繰越金 (B) - (E)	3,166,123	3,162,123	

事務所積立金	
1990年～2025年3月末までの積立額	¥6,000,918
2025年度利息	¥6,352
2025年度取崩	¥0
2025年度残高	¥6,007,270